

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
北海道開拓記念館内  
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 北海道博物館協会および学芸職員部会 ホームページの整備と今後の課題

北海道博物館協会(以下、道博協)では、協会に加盟する館園の施設情報、行事・展示案内、学芸員の研究や学芸活動の情報を一元的に入手することのできるウェブサイト(以下、HP)とソーシャルメディア(以下、SNS)の整備を行い、平成25年3月から一般公開しています。運用から1年以上が経ち、ある程度のデータが蓄積されてきたため、これまでの成果とこれからの課題について、ここで一度整理したいと思います。

昨年度整備したHPは、主に道博協の会員もしくはその関係者向けのHPである「北海道博物館協会公式ホームページ(<http://www.hkma.jp>) (以下、道博協HP)」と主に一般向けのHPである「集まれ!北海道の学芸員(<http://www.hk-curators.jp>) (以下、部会HP)」の2つです。管理者は、道博協HPが道博協事務局、部会HPは学芸職員部会事務局がそれぞれ担当し、記事は事務局員だけでなく、加盟館園もしくは個人会員の方々も投稿することが出来る仕組みとなっています。なお、HPおよびSNSの整備については、全て学芸職員部会が担当しました。詳しい手法と運用体制については、栗原ほか(2013)を参照して下さい。

### 運用結果

平成25年3月1日から平成26年5月31日までの456日間の運用結果は下記のとおりです。

道博協HPは、合計ページビュー数21,278(1日平均46.7)、1人あたりのページビュー数は2.55となりました。

部会HPでは、合計ページビュー数59,185(1日平均129.8)、1人あたりのページビュー数は2.28となりました。なお、部会HPは、記事が投稿されると自動的にFacebookとTwitterへ更新情報が配信される仕組みとなっており、これらSNSを経由した閲覧者は全体の約24%となりました。

### 成果と課題

今回のHPの整備は、加盟館園の広報活動を支援することであり、ひいては加盟館園の博物館活動、学芸活動を促進させることを目的としています。

整備の結果、部会HPは、1日平均130ページが閲覧される人気サイトとなりました。特に、学芸員たちが普段行っている研究活動や教育・普及活動に関する理解を広報するため、ある特定のテーマに沿って記事を投稿する「コラムリレー」が閲覧ページの上位を占め、最も人気のあるコラムでは1,500ページビュー数を越えています。このコラムリレーは、昨年度は「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」をテーマに全52話が収録され、1つの本にまとめられる程の情報量となりました。なお、現在は「学芸員お勧め!秘蔵品のモノ語り」をテーマに新しく進められており、多くの学芸員たちが参加しています。今後も、このような活動を一つ一つ着実に、かつ継続的に行うことで、道内の博物館界の発展に寄与したいと考えています。

一方、道博協HPの閲覧者数が、部会HPと比べて少ない現状があります。関係者向けのHPであるとは言え、記事の更新頻度が極端に少ないことが主な原因であると考えられます。博物館大会の案内、道博協や各ブロック等で発行しているニュース、道内学芸員の公募情報の掲載など、一般の方々にとっても有用な情報はたくさん掲載できると思います。道博協HPは、いわば北海道博物館協会の目指したい方向性(体現したい形)を表現できる場だとも思いますので、HPへの記事投稿について皆様の積極的なご協力をお願い致します。学芸職員部会としても、改めてHPの投稿方法について、皆様に周知したいと思います。

(学芸職員部会 部会長 森岡健治)

(学芸職員部会 事務局次長 栗原憲一)

### (文献)

栗原憲一・中岡利泰・森岡健治・佐藤卓司・澤田 健(2013)  
「ウェブサイトを活用した道内博物館活動の広報と学芸員ネットワーク強化の試み」日本博物館協会編『博物館研究』

Vol.48 No.9, pp. 24-27



## 平成26年度消費税増税に係る 入場料等の変化

道央地区では、平成25年度第2回役員会開催に当たりメーリングリストを利用して議題を募集したところ、消費税率の変更に伴う入場料等の変更について、情報共有したいという希望が寄せられ、役員会での協議を経て構成館園にアンケート協力を依頼しました。過日開催した平成26年度総会において、アンケートをまとめた資料を配布したところですが、寄せられた情報から見える傾向についてご紹介します。

博物館の入場料金は博物館法第23条2項において対価の徴収を禁じられ、運営上やむを得ない場合のみ徴収することとされていることから、果たして消費税を理由とした入場料金の設定変更にあつた正当性があるかどうかなど、判断は単純ではなく、今回のアンケート調査の結果を見ても設置者の判断により対応が様々であることがわかりました。

アンケートによると、半数以上の館園が料金を据え置くとの回答でした(入館料等が無料の館園を含む)。ただし、次回の消費税率の変更に伴う変更の可能性を示唆する館園もあり、制度変更と利用者サービスの

狭間で悩める博物館園の姿が垣間見られます。

公立館園の回答には、「入場料は条例等で定められたものであり、あくまで条例に従い変更・維持されるもの」と認識する事例が多くみられました。この条例についても、消費税を理由に変更されたケースと、税体系とは別のものとして設定されているケースがあるようです。参考に国立系博物館の状況を見ると、平成26年度は消費税率の変更を理由に入場料の値上げを実施しており、入場料に消費税が含まれていることを明確に示しています。

また、料金設定について「近隣文化施設の入館料を参考にして改定する」という方法も確認されました。従って、改定のタイミングによっては、入館料の変更にタイムラグが生じる可能性もあるようです。

なお、博物館園の入場料表示は基本的に消費税等を含んだ総額表示が採用されており、利用者が税金等の内訳を考える機会は少ないのですが、この度の税率変更は、文化施設の料金に市民の目が向く機会にも成りえます。社会情勢の変化に対応することは当然のことではありますが、いたづらに博物館の印象が貶められないことを期待したいと思います。

(北海道開拓の村 学芸員 細川健裕)



## 平成25年度共催講座 「郷土の歴史講座」

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では、昨年度、函館市中央図書館(以下、中央図書館)との共催で「郷土の歴史講座」を開催しました。

この講座は、当協議会加盟館園の学芸員の研究発表の場として図書館を利活用し、図書館資料の調査研究の成果を図書館・市民に還元することを目的に企画されたもので、中央図書館を会場に昨年度は3回開催されました。

第1回は、「発見されたガラス原板」(当会賛助会員田原氏、道立函館美術館大下氏、市立函館博物館保科・野村氏、職名当時)で、市立函館博物館と道立函館美術館が共同調査で発見したガラス写真の原板(中央図書館所蔵、明治期以降撮影)について、これまで解明された情報を解説されました。

第2回では、「道南の美術 現代まで／から」(道立函館美術館大下氏)と題して、函館を中心とした道南の美術史について、美術家とその作品を取り上げながら紹介されました。

第3回は、「『江差屏風』と古文書に見る江戸時代の江差」(江差町教育委員会宮原氏)というテーマで、江戸時代の絵画や古文書から、江差の鯨漁、北前船、文化について説明されました。

この講座には、他の内容でも実施して欲しいとの要望が高かったことから、今年度も継続して実施します。既に第1回が、「松前藩の決断—箱館戦争に消えた幻の城郭—」(厚沢部町教育委員会石井氏)というテーマで開催され、延べ10次に及ぶ発掘調査の成果から、これまで謎の多かった館城の姿、築城に至る松前藩の決断について解説されました。

今年度も、時期・テーマを設定しながら合計3回開催する予定です。内容が決定次第、ブログなどをおして随時案内していきますので、興味のある方は是非いらしてください。



平成25年度第3回の開催風景

(市立函館博物館 学芸員 小林 貢)



## 展示のリニューアルを願って

今年の3月、東京の国立新美術館で企画展「イメージのカー国立民族学博物館コレクションにさぐる」を観覧した。人間がイメージを形にしてきたその営みを、地域や歴史で分類するのではなく、あくまで共通した造形や機能で提示したものだ。入室してすぐ出現する、巨大な壁に展示された時代も地域も様々な無数の仮面の陳列とその圧倒的な迫力を目の当たりにすると、まさにこの企画が意図する「人のイメージの力」を感じずにはいられない。

現在の増毛町の郷土資料展示室を顧みて感じるのは、来館者の皆さんは出口を出るまでにいったいどれだけの解説パネルを読まなければならないのだろうかということ。せっかく来ていただいたのだからたくさんの情報を得ていただき、たくさんの知識を得てほしい。そんな思いで少しでもわからないことがないよう、とにかく説明をパネルにしてある。解説の人間がいなくても意味がわかるように、それはもう丁寧だ。けれども、これは本当に親切なことなのか、最近疑問だ。わざわざ遠いところからこの場所へ足を運んでいただ

いて、伝えたいことは何なのか。昔の道具が置いてあり、説明が付してあるだけの施設に何の価値があるのだろうか。

一方で、旧商家丸一本間家や北海道遺産に指定された駅前通りではそれぞれ施設の解説スタッフと駅前のボランティアガイドによる案内が好評だ。直接その町で暮らす人の訛りを聞きながら、気さくな雰囲気や街の歴史に耳を傾け、古い建物を見て回る。結局人が欲しているのは「雰囲気」であり「体験」なのだ。仮に解説スタッフがおらず建物の前に解説看板が立っていたところで、その魅力は半減してしまうだろう。「感覚」を楽しみたいのであり、書物やネットで簡単に得られるような「知識」を求めて来るのではない・・・気がする。

そんなことを考えながら、展示物や解説をそぎ落とし、本当に伝えたいことを感じ取っていただけるような美しい展示リニューアルが実現するまで、郷土資料展示室としては、とりあえず人が直接伝える魅力的な対面の解説に力を入れていきたいと思った。ARやプロジェクションマッピングなどの空間技術がもっと手軽に利用できるようになれば、いつかこんな長つたらしい解説パネルは必要なくなるのでは・・・と夢見ている。

(増毛町教育委員会 文化振興係長 小野卓也)



## 苫小牧市美術博物館 開館1周年記念特別展

苫小牧市美術博物館では、7月19日から9月15日まで開館1周年記念特別展「青森県立美術館コレクション展～アオモリ・アヴァンギャルド：堆積する創造のエネルギー」を開催いたします。

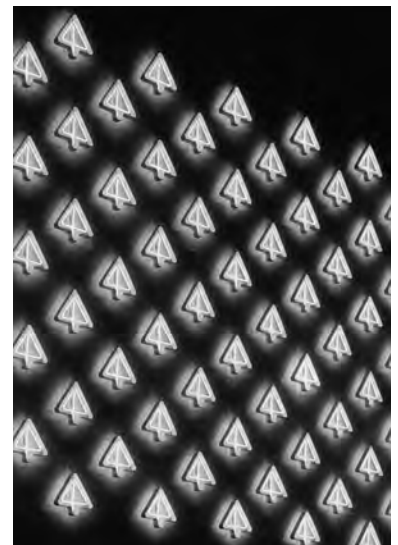
縄文文化を源流とする青森と北海道は、古くは縄文時代から現在にいたるまで交流があり、密接なつながりを有しています。特別史跡「三内丸山遺跡」に隣接する青森県立美術館は、縄文遺物を常設展示するなど、複合施設である当館と共通する点があり、地域に根差した同美術館のあり方は、これからの美術館活動の指標になるものと考えられます。

本州最北端に位置する青森の風土からは、神仏像や美人画に独特の様式を打ち立てた棟方志功、既成の価値や現代社会を批判する作品で世界的な評価を得た工藤哲巳、60年代のアンガラ文化を牽引した詩人で劇作家の寺山修司、そして若い世代の圧倒的支持を集める奈良美智など、いわゆる「芸術」の枠組みに収まりきれない多彩な才能が生まれ、時代の表現を大きく変えてきました。

こうした青森のアーティストたちの作品について、青森県立美術館のコレクションをとおして紹介する本展では、その優れた所蔵作品のみならず建築的にも活動的にも従来型の美術館から大きく抜け出た同館の特

質についても着目し、三内丸山遺跡の発掘現場に着想を得て設計された建築(設計:青木淳)や、グラフィックデザイナー菊地敦己の手がけたマークやサイン、フォントなど総合的なデザインについても焦点を当てます。

開幕日の青森県立美術館学芸員による記念講演をはじめ、展示作品に連動した内容のワークショップ、そして子ども向けの普及プログラムのほか、現代アーティストを招聘した関連展示など、各種関連事業を多数実施する今回の特別展。青森県立美術館の優れたコレクションを一堂にご覧いただけるこの機会に、青森のアーティストたちの創造のエネルギーを体感していただければ幸いです。



青森県立美術館 ネオンサイン

(苫小牧市美術博物館 学芸員 細矢久人)

道庁管内 NEWS  
**帯広百年記念館 H25年度事業報告**  
**連携事業「よりどりみどりがおかフェスタ!」を開催しました**

帯広市では、施設の利用促進とより質の高い学習機会の提供を目的に、帯広百年記念館、おびひろ動物園、帯広市図書館、帯広市児童会館の4館が連携した事業「社会教育施設アクションプログラム(4館連携事業)」を実施しています。この事業では、講座の共催や、共通テーマに基づく展示、施設をめぐるお勧めコースを紹介する「散策マップ」の制作などを行っています。

平成25年度は、新規イベント「よりどりみどりがおかフェスタ!」を夏休み期間中の8月4日(日)に開催しました。このイベントは、緑ヶ丘公園内の帯広市の施設と北海道立帯広美術館が一斉に、子ども向けの体験教室やワークショップなどを開催し、丸一日楽しく学ぶことができるお祭りです。

百年記念館では、体験教室「じょうもん人と腕くらべまが玉作り」、図書館による「おはなし会」や「おりがみ教室」、移動図書館バス「ナウマン号」で本の貸し出しを行いました。

動物園では、ゾウのフンから葉書を作る「ゾウペーパーをつくろう」や「動物3Dお面作り」、「園内ガイドツア

ー」、美術館ではコレクションギャラリーを使ったワークショップ「ミュージアムミステリー」、児童会館では「恐竜のレプリカ作り」、「緑ヶ丘の木を知ろう」などを楽しんでいただきました。十勝ばんえい競馬の「リッキー号」も登場し、馬車への乗車や餌やり体験を行いました。

参加者のみなさんは、スタンプラリーを行いながら各施設を巡り、延べ3,180人の親子が「よりどりみどりのイベントを満喫していました。

「よりどりみどりがおかフェスタ!」は、緑ヶ丘公園の自然や歴史をめぐるツアーなど新しい事業を加え、今年度も8月10日(日)に開催予定です。今回もたくさんの方に参加していただきたいと思っています。



よりどりみどりがおかフェスタ!  
 (帯広百年記念館 学芸員 伊藤彩子)

道庁管内 NEWS  
**紋別市市制施行60周年記念**  
**紋別市立博物館特別展**  
**没後75年「本庄陸男と大地の侍」の開催**

紋別市立博物館では紋別市市制施行60周年を記念して、平成26年7月17日(木)から8月10日(日)にかけ特別展没後75年「本庄陸男と大地の侍」を開催します。

昭和初期を代表する作家である本庄陸男は当別町で生まれ、8歳から15歳までの少年期を紋別市で過ごしました。北海道の雄大かつ厳しい自然と、苦難に満ちた北海道開拓農民の暮らしが本庄の原風景であり原体験となっています。代表的な作品には、小学校教員時代の経験を題材とした「白い壁」や、旧武士団の北海道移住を描いた歴史小説「石狩川」などがあります。本庄は「石狩川」を刊行した2カ月後、肺結核により34歳の若さで亡くなりました。紋別市上渚滑町の西辰寺には本庄のお墓があります。今年本庄が亡くなって75年にあたり、北海道立文学館や小樽市立文学館、北の映像ミュージアムにご協力をいただき、昭和の激動期を駆け抜けた作家本庄陸男の足跡を振り返ります。

展示会では、直筆原稿、刊行書籍、写真や代表作の

紹介パネルなど数多くの資料を基に、本庄の紋別・教師時代とその生涯、小林多喜二ら同時代の作家たちとの交流、妻清子の死、新聞連載小説「石狩川」についてなど、さまざまな角度から本庄陸男の作品や人生に迫ります。

また、7月20日(日)には本特別展に併せ、紋別市文化会館多目的ホールを会場に、北の映像ミュージアム館長小檜山博氏による講演会「本庄陸男の現代文学における功績」、代表作「石狩川」を映画化した東映映画「大地の侍」(昭和31年、大友柳太朗他出演)の上映会を開催します。

特別展、講演会、映画上映会とも観覧無料となっておりますので、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

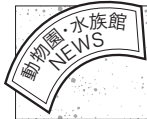


作家 本庄陸男



少年期の本庄陸男

(紋別市立博物館 業務係長 小林健一)



## アイドルたちの旅立ち

円山動物園ではこの春、ホッキョクグマのこどもポロロとマルルが、とくしま動物園と熊本市動植物園にそれぞれ旅立っていきました。このこどもたちは平成24年12月生まれで、昨年度一年間は当園随一の人気ものでありましたので、ファンの皆さんばかりではなく我々職員も深い喪失感を感じているところです。

動物園・水族館の役割のひとつに「種の保存」があります。絶滅のおそれのある種は動物園内においても繁殖の努力をしなければなりません。こどもを親から引き離して移動することは、ホッキョクグマというひとつの種の保存のため、次の繁殖を促す策ではありますが、一方で集客数という目標も課せられている施設運営において極めて厳しい状況に置かれたと言わざるを得ません。新たな命の誕生を心待ちにしているところです。

日本動物園水族館協会北海道ブロックの活動状況を報告します。園館長会議が4月15日・16日の2日間にわたり小樽水族館で開催され、各園館の事業計画や会議日程などが話し合われました。特に新たな試みとして、他の園館が発行している年間パスポートを提示することによって入場料を割引くサービスの導入が

議題となりました。この割引は一部の園館ではすでに実施済みですが、生き物を飼育展示する施設同士で入場者の相互交流促進を図ることにより、お客様に自然への関心を一層深めていただくという試みです。協議の結果、準備が整った園館から順次拡大していくことになりました。

また、飼育担当者の研修会が6月10日・11日の2日間にわたり円山動物園で開催されました。各園館からの研究発表や北海道大学総合博物館の大原昌弘教授による特別講演など充実した研修会となりました。



人気者だったホッキョクグマの双子

(札幌円山動物園 園長 田中俊成)



## 学芸職員部会調査研究助成 「鳥沼・生き物調査隊」中間報告

富良野市博物館では、自然環境調査の一環として、落葉樹林の春植物や光環境の調査を行っています。これに関連し、身近な自然(鳥沼公園)の環境調査を実践する博物館講座「鳥沼・生き物調査隊」で、今年度のテーマに落葉樹林に特有な草花「春植物」を取り上げました。

落葉樹林は林床に日光が差し込む季節が春に限られますが、春植物はこの環境に適応した植物で、春の間に活発に生長・繁殖します。よく知られているところでは残雪期のフクジュソウや山菜のニリンソウなどがあります。

この春植物の小区画(20cm×20cm)を設置してフェノロジー(植物の季節的な変化)を調べたり、林床植物への日光の当たり具合を主に調査しました。

4月19日と5月10日の二日間にわたって講座を実施し、参加者と共に区画の中の春植物を「花無し個体」「開花個体」「結実個体」に区分して数え、また1週間分の日射量を測定するシートを取り付けました。

春植物が豊富にある生態系は、歴史の浅い二次的

な落葉樹林では見られないものです。参加者には調査を通じて、天然の湿地林が市街地にほど近い平野部に残っていることの貴重さを感じてもらえればと思っています。

今回の調査にあたり、平成25年度学芸職員部会調査研究助成事業の助成を受けて日射量測定シートを購入しました。部会の皆様には厚くお礼を申し上げます。研究成果については富良野市博物館の平成27年度特別展や鳥沼公園ガイドブック(平成28年発刊予定)等で紹介していく予定です。



区画内の春植物数え



日射量調査のシート設置

(富良野市博物館 学芸員 泉 団)



## 北海道青少年科学館連絡協議会 平成25年度活動報告

本協議会は、道内の青少年科学館間の連携を深めるとともに、科学知識や科学館職員としての資質の向上を図ることを目的に活動しています。

平成25年度は、5月17日～18日に第1回館長会議(会場:新さっぽろアーキシティホテル)を、10月17日～18日に第2回館長会議(会場:滝川市こども科学館)を開催しました。

会議では各施設の現状と課題を報告し合い、情報共有を図るとともに、優れた取り組み事例を学び合い、それぞれの施設で生かしていきます。また、10月11日～12日に第49回職員研修会(道立オホーツク流水科学センター)を開催し「魚の水漬け標本」の実習などを行いました。

なお、平成25年度は本協議会の開設50周年を記念し、加盟施設を巡るスタンプラリーを8月1日～11月30日に実施しました。耐震改修工事中の札幌市青少年科学館を除く12館が参加しました。参加館のうち3館まわってスタンプを集めた方々に記念品を贈呈することとし、95通(40家族)の応募がありました。応募者はそれぞれ近隣の科学館を巡っている傾向があり、スタンプラリーをきっかけに来館したと推測されます。道外からの応募もあり、施設の利用促進と知名度向上につながったと思います。

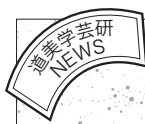
また、加盟施設同士で「サイエンスショー」などの出前事業を行うなどネットワークを生かした取り組みを進め、道内の社会教育、科学・理科教育の一助となるべく活動を行っております。



第2回館長会議(滝川市)の様子

最後になりますが、札幌市青少年科学館は耐震改修工事を経て平成26年4月24日に再開館しました。天文分野の展示をリニューアルし「天文・地球科学コーナー」として生まれかわりました。さまざまな視点から宇宙と太陽系と地球、そして私たちが住む北海道の成り立ちまでを解き明かすダイナミックな展示コーナーになりました。皆様のご来館をお待ちしております。

(札幌市青少年科学館 広報企画担当係長 垂石寛史)



## 平成25年度 第22回北海道美術館 学芸員研究協議会報告

去る3月6日、7日の両日、22回目となる北海道美術館学芸員研究協議会が道立近代美術館において、また、初日の研究協議終了後には同会の総会がホテルライフォート札幌において催された。

今回の研究協議のテーマは「美術館と情報発信」。展覧会や普及事業の広報宣伝、調査研究活動の成果の公表、あるいは館自体への理解の促進など、情報の発信は利用者や住民の認識や行動に結びつく重要な博物館活動である。

研究協議は、まず佐藤会長の開会あいさつの後、北海道新聞社文化部の岩本茂之記者が「美術記者から見た、この1年の道内展覧会状況」と題して特別講話を行い、マスメディアの第一線で情報の収集と伝達にあたる報道人の視点を披歴、伝えることの重要性を参加者とともに再確認した。

続いて、事前に行われたアンケート「美術館の情報発信」(27館37名回答)の集計結果が報告され、印刷物からネット媒体まで多様なツールを用いる各館の現状と課題が明らかとなった。次いで情報発信の具体的な事例について3館が報告。モエレ沼公園の宮井学芸

員が「facebookの活用と可能性」、札幌芸術の森美術館の佐藤学芸員が「来館者アンケートにみる展覧会情報取得媒体の推移」、釧路市立美術館の武東学芸員が「釧路市立美術館キャラクターペキタの活動」について、それぞれの館の取り組みの実際とその成果が紹介された。いかに情報を伝えるかは事業の成否に直結する問題だけに、全体討議においても活発な質疑と意見交換がなされた。

この日は最後に、道立近代美術館の地家課長から「文化財レスキュー2013に参加して」の報告があり、初日のプログラムを終了した。

二日目は、「スイーツ王国さっぽろ」の企画運営など北海道の経済・文化に関してさまざまな場面で積極的な提言を行って注目を集めている吉田聡子氏(榊桐光クリエイティブ代表取締役)の特別講話「価値と強みの伝え方」を聴講。「伝える事から始まるイノベーション」をテーマに、「広報」を「幸報」ととらえ、ビジョンと価値をどう市民に伝え心をつかむか、その視点と手法を学習した。事例報告として道立旭川美術館の新明副館長が「論文執筆の実際と体験」を話し、最後に札幌芸術の森美術館の宮城学芸員が「屋外彫刻の保存修復」について研究発表して全日程を終えた。

(北海道立近代美術館 学芸部長 寺嶋弘道)

## 館・園の主な展覧会と普及事業

(平成26年7月～10月の行事予定)

### 石狩

- 札幌芸術の森美術館(011-591-0090)  
7/5～11/3 企画展「Sprouting Garden-萌ゆる森」  
7/5～7.7/12～13、7/18～21、7/25～31  
ワークショップ「創造体験!メタルキーホルダー」  
(佐藤忠良記念子どもアトリエ)  
7/19～9/28 企画展「札幌国際芸術祭」  
8/1、8/3～8、8/10～20、8/23～24、8/30～31  
ワークショップ「光の箱」(佐藤忠良記念子どもアトリエ)  
10/10～1/18 企画展「藤城清治の世界展」  
●札幌市豊平川さけ科学館(011-582-7555)  
7/5、7/12、7/19 実習「さかなウォッチング」  
7/6、7/13、7/27、8/3、8/10、8/24、8/31  
体験イベント「わくわくたいけん さけたちのエサやり」  
8/9 体験イベント「公開さかな調査」  
8/23 体験イベント「真駒内川ミニ水族館」  
9/23 お祭り「さっぽろサケフェスタ2014」  
10/4 実習「採卵実習」  
10/5、10/26 体験イベント「サケ・タッチ・プール」  
10/11 体験イベント「琴似発寒川サケ観察会」  
10/12 体験イベント「サケの人工受精体験」  
10/18 体験イベント「星置川でサケを見よう」  
10/25 実習「豊平川サーモン・ウォッチング」  
●札幌円山動物園(011-621-1426)  
7/26～8/24 企画展「食虫展2014」  
8/11～12 ワークショップ「ZOOナイトキャンプ」  
9月中旬 企画展「スネークアート展」  
9/22～9/26 講座・ワークショップ「ザリガニ学会」  
10/4～10/5 企画展「キノコ展」  
10/12～10/13 ワークショップ「サイエンZOO」  
10/18 ワークショップ「CISEヒグマテリング」  
●北海道開拓記念館(011-898-0456)  
6/1～1/18 巡回展「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」  
(道南・道東地域各施設を巡回)  
●北海道立近代美術館(011-644-6882)  
7/5～8/24 特別展「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」  
7/18 カルチャーナイト2014・コンサート「響け!和太鼓、乱拍子」  
7/19～9/28 近美コレクション「夏季名品選-ガレ(ガラス工場風景文花器)他」  
7/19～9/28 特別展「札幌国際芸術祭2014 『都市と自然』」  
7/25～8/17 ミュージアム・オリエンテリング「キンピのまわりを徹底リサーチ!」(ミュージアム・スクール2014)  
7/25～8/17 ミニ・アトリエ「しおりにもなるよ におい袋を作ろう!」(ミュージアム・スクール2014)  
8/1～2 ガイド・ツアー「ピジュツカンの裏側にもぐりこめ!」  
(ミュージアム・スクール2014)  
8/8～9 ワークショップ「うちわに描こう 日本画に挑戦!」  
(ミュージアム・スクール2014)  
9/6～10/26 特別展「アートと旅する500年」  
●北海道立文学館(011-511-7655)  
7/19～8/24 特別展「FROM HAND TO HAND 手から手へ展 絵本作家から子どもたちへ 3.11後のメッセージ」  
9/6～11/9 特別展「ムーミンの世界展～ヤンソンさんからの贈り物～」  
●北海道立三岸好太郎美術館(011-644-8901)  
6/27～8/31 所蔵品展「チャレンジの人-三岸好太郎」  
7/1 開館記念日 アニヴァーサリー2014「所蔵品展無料開放」  
7/1 アニヴァーサリー・コンサート「ヴァイオリンとチェンバロの魅力」  
7/5 土曜セミナー「折元立身トーク&パフォーマンスアートは愛とチャレンジだ!」  
7/18 カルチャーナイト2014・無料開放  
「①所蔵品展観覧無料 ②似顔絵コーナー ③カルチャーナイト・コンサート」  
7/19～8/17 「夏休みたんけん美術館」  
7/24～31 「スイッチ・オフ・ザ・ミュージアム」  
8/5～6 「フリー・アトリエ」(自由参加工作コーナー)  
8/8 「子どものためのコンサート」  
9/6～10/19 特別展「三岸好太郎と池田満寿夫」  
9/6 「佐藤陽子・トーク&ヴァイオリンコンサート」  
9/27 土曜セミナー「三岸好太郎と池田満寿夫展」  
10/4 「オリジナル・スイーツ・デー&ギャラリー・ツアー」  
●いしかり砂丘の風資料館(0133-62-3711)  
7/19、7/26、9/6 体験講座「土器づくり教室(全3回)」

- 7/26 体験講座「テンキ作り～ハマニクで小がこを編む～」  
8/2 体験講座「サケ切身骨格標本をつくる」  
8/9、8/23 体験講座「縄文のサケ漁をジオラマでつくる(全2回)」  
8/30 体験講座「勾玉づくり」  
10/18 野外講座「石狩湾岸～低地帯サケをめぐるバスツアー～」  
10/月 野外講座「石狩ビーチコーマーズ/秋の漂着物」

### 渡島

- 市立函館博物館(0138-23-5480)  
6/15～8/31 五稜郭築造150年記念特別展「五稜郭築造と箱館戦争」  
7/6、7/13、7/20 講座「体験!日本画教室」  
7/12、7/26、8/9、8/23 展示解説セミナー「特別展『五稜郭築造と箱館戦争』」  
講座「宇宙と天体『夏の星座を見てみよう』」  
7/19 講座「親子でつくる『ペタペタアート』」  
7/25 講座「夏休み自由研究『五稜郭探検隊2014』(1)」  
7/26 講座「親子でクッキング!『アイヌの伝統料理』」  
7/29 講座「夏休み自由研究『鉄道車両の仕組みとJR見学会』」  
7/30 講座「わくわく科学教室『ドライアイスで遊ぼう!』」  
8/1 講座「わくわく科学教室『乾燥剤でくまざりを作ろう!』  
-シリカゲルって何?-」  
8/7 講座「夏休み自由研究『黒曜石で矢じりを作ろう!』」  
8/8 講座「夏休み自由研究『五稜郭探検隊2014』(2)」  
8/24 講座「やさしく学ぶ『北海道南部のアイヌ語』」  
9/20 展示解説セミナー「企画展『新収蔵資料展』」  
10/11 講座「わくわく科学教室『手軽な魚の解剖学』」  
10/19 講座「学芸員こぼれ話『函館にくらしたアイヌの人々』」  
●函館市北洋資料館(0138-55-3455)  
7/20～26 絵画展「第20回函館の『海と港』児童絵画展」  
7/27 ワークショップ「夏休み親子体験教室『貝殻絵巻を作ろう!』」

### 後志

- 小樽市総合博物館(0134-33-2523)  
4/29～7/13 企画展「勝納川-小樽を育んだ川」  
運河館小さな企画展「84小樽博-30年前の夏の思い出-」  
6/7～8/1 運河館ギャラリートーク「思い出の中の小樽博覧会」  
7/13 パラタクソノミスト養成講座「宝石『初級』in小樽」  
7/19 企画展「バイオメテックの世界」  
7/26～9/15 スター・ウィーク協カイベント「望遠鏡を作ろう」  
8/1 「昆虫標本をつくる」  
8/3 「はくぶつかんの『たなばた』」  
8/7 第15回青少年のための科学の祭典「小樽大会」  
8/7～8 発見ツアーズ「美幌の石炭を巡る-現代の石炭露天掘りと炭鉱開発の歴史」  
8/9 第8回「小樽クラシックカー博覧会」  
9/7 企画展「刷り師三田村」  
10月～11月 「キノコと秋の自然展」  
●西村計雄記念美術館(0135-71-2525)  
7/17～8/24 展覧会「しりべしミュージアムロード共同展 ミュージアムロード百科事典」  
7/17～10/13 展覧会「夏から秋の展覧会 西村計雄の世界遺産めぐり」  
7/26 ワークショップ「『えのぐであそび! ことどもだらけでなが〜い絵』に挑戦!」  
8/7 観察会「七夕タゴ! 星空観察に挑戦!」  
8/27～10/13 展覧会「没後10年『私の山岸さん』展」  
10/26 コンサート「開館15周年記念コンサート」

### 上川

- 旭川市科学館「サイバル」(0166-31-3186)  
7/19～9/15 特別展「エレメント・サイエンス～元素の世界をさぐれ!～」  
●旭川市博物館(0166-69-2004)  
7/19-8/17 旭川市博物館第72回企画展「北の海の記憶 バイダルカのルーツを探る旅」  
●旭川兵村記念館(0166-36-2323)  
4/25～10/27 特別展「『旭川兵村』むら総出の米づくり」  
5/17 特別展関連事業・鑑賞会「特別展の特別鑑賞会」  
6/22 特別展関連事業・見学会「旭川兵村の探索」  
10/19 特別展関連事業・村の体験会「旭川兵村のまちの変遷」  
●士別市立博物館(0165-22-3320)  
7/6～8/31 テーマ展「ふしぎなトンボの世界」  
7/18 博物館夜間開館「カルチャーナイト」  
7/26、8/5 講座「土器づくり」  
7/27 講座「高山植物観察会」  
8/2 講座「Jr博物館クラブ③」

8/7~8 講座「教職員のための版画で夏休み合宿」  
 8/12 博物館夜間開館「ナイトミュージアム」  
 8/31~9/14 テーマ展「菊の節句展」  
 9/13 講座「Jr博物館クラブ④」  
 9/20 講座「米づくり体験②稲刈り」  
 9/27 講座「秋の自然観察会」  
 10/4 講座「米づくり体験③脱穀」  
 10/11 講座「天塩川流域の考古学」  
 10/12~11/3 テーマ展「秋のキノコ展」

●富良野市博物館(富良野市生涯学習センター内・0167-42-2407)

7/19 富良野の自然に親しむ集い第2回「ヘイケボタル観察会」  
 8月上旬 鳥沼・生き物調査隊第3回「地表生昆虫を調べる」  
 8/9~10/19 第26回博物館特別展「石黒誠写真展『雪虫』」  
 8/12 富良野の自然に親しむ集い第3回「星空観察会  
 ~満月・惑星・流れ星~」  
 8/31 見学会「魅力再発見! レト口建築めぐり」  
 9/14 富良野の自然に親しむ集い第4回「秋の高山植物  
 ~望岳台をめぐる~」  
 9/27 自然講演会「雪虫」

網 走

●博物館 網走監獄(0152-45-2411)

7/12 ワークショップ「農園体験 畑の草取り作物の管理」  
 8/3 体験講座「麦わらで虫かご作り」  
 8/7 ワークショップ「七夕飾り作りと流しそうめん」  
 8/9~10 ワークショップ「文化財建築 瓦で遊ぼう・煉瓦の  
 アーチ造りに挑戦」  
 8/24 ワークショップ「農園体験イチゴ・ジャガイモの収穫」  
 9/8 ワークショップ「十五夜」  
 9/14~15 イベント「二見神社収穫祭」  
 9/28 ワークショップ「農園体験ジャム作り」  
 10/1 企画展「文化財建築の技を繋ぐ」  
 10/19 ワークショップ「農園体験 金時豆・かぼちゃの収穫」  
 10/25 ワークショップ「日本文化に触れる 能と狂言」

●北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)

7/12~10/5 第29回特別展「船、橈、スキー、かんじき 北方の  
 移動手段と道具」  
 7/12 講演会「皮船とイヌ櫂の謎」  
 7/26 はくぶつかんクラブ「北方民族のおもちゃ ついばむ鳥」  
 8/2 はくぶつかんクラブ「北方民族のけん玉づくり」  
 8/9 はくぶつかんクラブ「北方民族博物館でジャムと  
 北欧パンケーキづくり」  
 8/23 はくぶつかんクラブ「ミニチュアそり作り」  
 8/30 講座「北海海域と船-探検と冒険の物語-」  
 9/13 はくぶつかんクラブ「魚の皮の小物」  
 9/20 館長講座「土器模様の原体を学ぶ 上級編」  
 9/21 北海道博物館紀行「利尻町立博物館」  
 10/11~10/26 オホーツクシリーズ⑥「古裂合わせ~浜田智津子  
 の四季のお細工もの」  
 10/11 講習会「はじめてのお細工物づくり」  
 10/18 講習会「カムチャツカのサケ料理づくり」

10/19 講習会「お細工物づくり(中級)」  
 10/25 はくぶつかんクラブ「ビーズ織り」

胆 振

●登別市郷土資料館(0143-88-1339)

7/1~8/24 企画展「はじめまして! -平成25年度新資料展part2-」  
 9/2~11/16 企画展「片倉家の登別移住(仮)」

十 勝

●帯広百年記念館(0155-24-5352)

6~10月 連続講座 中級編「緑ヶ丘のトンボ調査会」  
 6~10月 創造活動講座「後期陶芸講座」  
 7/5~8/3 ロビー展「荘田喜與志写真コレクション10  
 昭和からの伝言」  
 7/5,7/13,7/19 創造活動講座「親子陶芸教室」  
 7/12 博物館講座「ものがたりの昆虫2」  
 8/2 創造活動講座「親子七宝教室」  
 8/7~9/15 特別企画展「十勝・帯広に映画館がたくさんあった頃」  
 8/9~31 ロビー展「昭和の遊び道具たち展」  
 8/10 イベント「よりどりみどりがおかフェスタ!」  
 (体験教室・スタンプラリーなど)  
 8/16 博物館講座「東十勝の鉄道史と鉄道遺産」  
 8/24 見学会「十勝平野の生い立ちを探る」  
 8/30,9/1 体験教室「植物の名前しらべ(タデ類)」  
 9/20 博物館講座「十勝石の話」  
 9/28 体験教室「昆虫の名前しらべ(甲虫類)」  
 9/28 見学会「狩勝峠周辺を歩く」  
 10~11月 創造活動講座「楽しくデッサン教室」  
 10/4~11/30 企画展「アイヌの工芸-東北のコレクションを中心に-」  
 10/4~11/3 ロビー展「狩勝峠写真展2」  
 10/4 博物館講座「トンボ学入門~調査と文化を知る」  
 10/11 博物館講座「江戸時代のトカチ場所とアイヌ社会」  
 10/25 博物館講座「アイヌ語で自然かんさつ」

釧 路

●厚岸町海事記念館(0153-52-4040)

通年 天文学習「プラネタリウム番組の投影」  
 通年 講座「海事記念館こどもクラブ」  
 4/16~11/15 利用促進「3館スタンプラリー」  
 7月中旬~8月中旬 写真展「感動の瞬間」  
 9月上旬~(約2週間) 企画展「海の作品展」  
 9月下旬~(約2週間) 企画展「小中学生『宇宙の日』記念作文絵画コンテスト」  
 10月下旬 観察会「ほしぞら教室」

根 室

●標津サーモン科学館(サケの水族館・0153-82-1141)

7月中旬 観察会「サクラマス遡上観察会」  
 7月下旬~ 特別展「忠類川サーモンフィッシング20周年(仮題)」

北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp>

当協会と加盟博物館園の情報発信ならびに各館園の連携・協力関係を深めるために、主に博物館関係者を閲覧対象として、博物館大会の案内、ニュースの発行や公募・助成情報などを掲載しています。

学芸職員部会ホームページ「集まれ! 北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp>

学芸員が所属する博物館園ならびに個人の活動情報、研究成果等を発信し、広く各館園の利用促進と学芸活動の理解を図るための普及と広報のHPです。「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」をテーマに、さまざまな学芸員が記事を投稿する「コラムリレー」、WEBサイトのほか、Facebookページ、Twitterページも開設しています。